

大磯 「少数精鋭」



池希望(3年)

最速135キロのストレートを投げ込む大磯の絶対的エース。直球とスライダーのコンビネーションでアウトを積み重ねていく。秋大会では市立橋相手に3失点の好投をみせて評価を高めた。「圧巻の投球でチームを勝利に導きたい」



宮島佑(3年=捕手) 酒井爽多(3年=二塁手)

2番・宮島が広角へ打球を打ち分けてチャンスを作り、3番・酒井が強い打球で野手を射抜いて得点に絡んでいく。酒井は「少ないチャンスを得点につなげていきたい」と打席へ向かう。



2大会連続で地区予選突破 湘南エリアのダークホース

2・3年生合わせて選手10人の大磯が、2大会連続で地区予選を突破した。湘南エリアのダークホースは、全員野球で夏ベスト16を狙っていく。

■2・3年生合わせて10人の戦い

グラウンドには手作りの懸垂棒や打撃ケージ施設が並び、選手たちが黙々とローテーションメニューをこなしている。「磯高(いそこう)」の略称で親しまれている大磯。2023年秋から2025年春まで公式戦で勝てなかったチームだが、同年夏の1回戦で希望ヶ丘と対戦。好投手を擁する相手に下馬評は希望ヶ丘優位だったが、当時2年生エースの池希望が要所を締める

ピッチングをみせると、打線が援護して4対2で勝利した。実に3年ぶりの勝利だった。新チームとなった秋予選でも予選を突破すると、1回戦で横浜栄に6対3で競り勝った。少数精鋭・大磯は、湘南エリアのダークホース的存在として知られるようになった。

■セルフスター型のチームへ

野球が好きな選手たちの情熱に寄り添うのは加藤理志監督だ。鎌倉から慶應大に進学した物理教諭は、藤沢総合での指導を経て2020年秋から大磯で指揮を執る。当時の部員は3学年合わせて20人弱。加藤監督は鉄パイプを組み上げるなど手作りで練習環境を整えながら、選手の自主性を尊重するメニューを仕

込んでいった。部員はじわじわと減っていったが、選手たちの努力によってチーム力はアップ。2023年夏の3回戦ではシード・向上相手に1対4で健闘する戦いをみせた。指揮官は「限られた環境で選手たちが自主的に練習に取り組んでくれている。自発的に行動するセルフスター型のチームになってほしい」と成長を見守る。

■最速135キロの県立屈指右腕

2026年の夏大会でベスト16を目標にするチームは、高橋勇聖主将(3年=中堅手)を中心に一丸となっている。最速135キロ・エース池は冬のトレーニングで体幹を強化し、ストレートの威力が増した。打撃でも4番を務める池は「この仲間と一緒に戦えることがうれしい。投打でチームに貢献したい」と練習に打ち込む。宮島佑(3年=捕手)、酒井爽多(3年=二塁手)らも攻守の役割を果たしてエースをバックアップ。

今春は予選で実力校・アレセア湘南に勝利して予選2位突破を決めると、1回戦で南に勝利し秋・春連続県大会1勝をマークした。高橋主将は「全員の力を結集して、夏のベスト16を目指していく。私立相手にも負けない野球を見せたい」と笑顔をみせる。新1年生を加えて戦力が増す大磯は、さらなる勝利を目指して夏大会へ向かっていく。

大磯高校

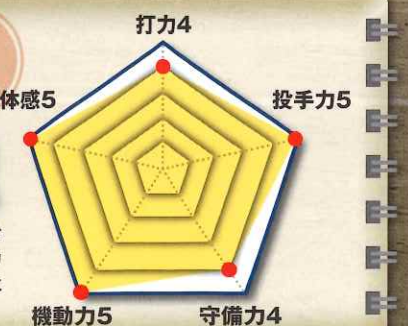
【住所】神奈川県中郡大磯町東町2-9-1
【創立】1927年 【甲子園歴】なし
1927年創立の県立高校(創立当時は町立)で2026年に創立100年を迎える。グローバル教育研究推進校。学校行事の「海鳴祭」で盛り上がる。大磯海岸まで徒歩3分。

主将の チーム分析

高橋勇聖 主将
(3年=中堅手)

夏のベスト16を狙っていく

「2・3年生は選手10人、マネージャー6人ですが、全員で力を合わせて戦っているチームです。エース池を中心に全員でカバーしながら勝利を追求していきます。秋・春予選突破を自信にして夏のベスト16を狙っていききたいと思います」



大磯・加藤理志監督

社会に貢献できる人になってほしい

「大磯には、少ない人数の中でも協力しながら努力する土壌があります。生徒たちには、自分で考えて行動する『セルフスター』を意識してほしいと伝えています。野球を通じて社会に貢献できる人になってくれることを願っています」

1991年神奈川県生まれ。鎌倉一慶應大。物理教諭。大学卒業後に県教員となり藤沢総合で責任教師、監督を経験し2019年に大磯へ着任し責任教師。2020年秋から監督。